

## 生物多様性及び生態系サービスの総合評価に関する論点等

分類	番号	総合評価の実施における論点 や 特筆すべき説明事項
総合評価の構成等にかかる事項	1	<p>JBO は単独で 240 頁に迫るものであり、JBO2 では 400 頁近い資料となる可能性が高く、<u>情報量の削減が望ましい</u>。そのため、以下の方針で再構成したく、本検討会で協議したい。また、<u>生態系サービスと人間の福利は一つの章に統合し、記述することにより、一般の人に対して「生態系サービスによって人間の福利が支えられている」というキーメッセージが伝わりやすい構成とする。</u>(後述の目次案を参照)</p> <p>① 総合評価報告書の本編は、各項目(指標グループ)の総括的な評価と評価アイコンのみによる構成とし、本編の情報量を削減する。生態系サービスに関する本編は、本検討会の資料 3 がもととなる。さらに、国民に分かり易く伝えるという観点から、必要に応じて以下の情報を追加する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 最低限の指標評価結果(グラフ等)</li> <li>・ BOX として扱う地域における事例(文化サービスにおける河童の話や人間の福利における森林セラピーの情報等)</li> <li>・ BOX として扱う研究事例(経年的なトレンド評価は困難であるが、生態系サービスが人間の福利に貢献していることを示す研究事例、書籍等における記述等)</li> <li>・ その他、人為的資本など BOX として取り扱うことが妥当と考えられる事項</li> </ul> <p>② 指標ごとの評価は、「付属書 指標」として別冊とする。なお、これは本検討会における参考資料 2 のイメージである。</p>
	2	<p><u>ガバナンスや伝統的知識に関して、何らかの形で言及すべきと考えられる</u>。多くの章に関連する事項であるため、<u>特定の章を設けず、以下の対応とする。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>BOX で取り扱う</u></li> <li>・ <u>ガバナンスや伝統知に関する関連指標を複数の章で設定し、言及する</u></li> </ul>
	3	<p><u>目次案の第VI章及び第VII章について、その必要性及び(記述の)実現可能性があるか判断しかねている(例:異なる指標を統合して全体として「生態系サービスが〇〇%減少した」といった分析や考察が可能なのか。また、そのような作業をすべきかどうか)。</u>これについて、<u>ご意見があれば適宜頂きたい。</u></p>
生態系サービス及び人間の福利に関する評価にかかる事項	4	<p>「生態系サービスによって人間の福利が支えられている」(キーメッセージ)を国民に示すことを念頭に、<u>指標の過不足について確認を行う</u>。一般の国民にとって理解が容易な指標であり、評価を行うために以下の要件を満たしていることが望ましい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>全国的なデータが存在していること</u></li> <li>・ <u>複数年にわたるデータが存在しており、トレンド評価が可能なこと</u></li> </ul>
	5	<p><u>キーメッセージを補う地域の事例や研究事例についてご指導を頂きたい。</u>(BOX 等において記述)</p>
	6	<p>生態系サービスについて、物量的な評価を中心としつつも、付属書においては<u>代替法</u></p>

		等を用いて可能な限り経済評価も実施し掲載した。ただし、総合評価報告書については、 <u>不自然なストーリーとならないよう、可能な範囲で記載する方針</u> としたい。
	7	個々の指標に対する評価の方法や結果、解釈について、技術的な検討が必要である。 「参考資料 2: 生態系サービス及び人間の福利に関する指標」をご覧になったうえで、特に気になる点については、 <u>第 1 回検討会後</u> でよいので、個別にご指導を頂きたい。
総合評価 の進め方 にかかる 事項	8	有識者へのアンケートの方針について、議題 3「有識者に対するアンケート計画について」において <u>検討</u> を頂きたい。 特に、第 1 部・問 2 において「過去 50 年間における生態系サービスの変化」を問うことを考えているが、その際の前提条件として、何に関する生態系サービスとすべきか、協議をお願いしたい。 ● 国民が実際に享受しているサービス量（需要の影響を受け、実際に取引されているサービス量や市場価格によって表現されるもの） ● 潜在的供給可能量（ポテンシャル量） ● 個人の生活の中における福利への貢献度
	9	<u>有識者ヒアリング先</u> について、特にどなたかヒアリングをすべき相手方について <u>ご提案</u> があれば頂きたい。

## 目次案

本編（総括的評価を記載、JBO については文章量を削減）				
見出し、目次			記述内容	
評価の概要（エグゼクティブ・サマリー；5 ページ程度）				
序章	第 1 節生物多様性及び生態系サービスの評価が求められる背景		<ul style="list-style-type: none"> <li>● JBO を基礎としつつ、生態系サービス及び人間の福利を対象に加えること、個々の指標の評価は付属書において示すことなど、必要な説明を行う。</li> </ul>	
	第 2 節生物多様性及び生態系サービスの総合評価の実施	1. 評価の目的		
		2. 評価の対象		
		3. 評価の枠組み		
		4. 評価の体制		
第 I 章わが国の自然と社会経済		第 1 節わが国の自然環境と生態系		
		第 2 節わが国の社会経済状況の推移		
大項目	中項目	既述内容	備考・BOX 等の扱い	
第 II 章生物多様性の損失の要因の評価	第 1 の危機	<ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>各危機の区分や生態系に対して総括的な評価を記述するとともに、評価アイコンを掲載する。</b></li> <li>● <b>個々の指標の評価は付属書に移行する</b></li> </ul>	<b>地図</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 参考情報として、「生物多様性評価の地図」や「S9」、その他の研究成果から地図を掲載する。</li> </ul>	
	第 2 の危機			
	第 3 の危機			
	第 4 の危機			
第 III 章生物多様性の損失の状態の評価	森林	<ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>個々の指標の評価は付属書に移行する</b></li> </ul>	<b>ガバナンス</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● ガバナンスについては確立された定義が存在しないが、記述方法について検討する。</li> </ul>	
	農地			
	都市			
	陸水			
	沿岸・海洋			
島嶼			<b>愛知目標達成状況評価</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 第 VI 章の愛知目標達成状況評価において言及する。</li> </ul>	
第 IV 章人間の福利と生態系サービスの損失に関する評価	豊かな生活の基本	<ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>生態系サービスのうち関係するものを選定し、記述</b></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>総括的な評価と評価アイコンを記述</b></li> <li>● <b>個々の指標の評価は付属書に移行する</b></li> </ul>	—
	資材			
	健康			
	災害からの安全			
	良い社会の絆			
第 V 章 生物多様性国家戦略の国別目標の中間評価			<ul style="list-style-type: none"> <li>● 生物多様性国家戦略 2012-2020 で示した関連指標群を活用</li> </ul>	
第 VI 章 評価の総括			<ul style="list-style-type: none"> <li>● 前章までの評価結果をとりまとめ、「〇〇が〇〇%減少した」などの表現で結論として整理。</li> </ul>	
第 VII 章 今後の生物多様性及び生態系サービスのトレンド			<ul style="list-style-type: none"> <li>● 生物多様性国家戦略 2012-2020 における文言を抜粋し、想定される今後のトレンドについて言及</li> </ul>	
第 VIII 章 今後の課題			<ul style="list-style-type: none"> <li>● 今後の対策に関わる課題について記載</li> <li>● JBO3 の実施に向けた課題について記述</li> </ul>	

+

付属書（指標ごとの評価）を作成